

## 添付資料

1. 座学「CBO の運営について」
2. グループワーク A「活動をやってよかったこと、しんどかったこと」プレゼン資料
3. グループワーク B「プログラムを考える」プログラムシュミレーションー対象地区の描写
4. グループワーク B「プログラムを考える」プレゼン資料
5. 検討会についてのアンケート回答まとめ

(資料 1)

座学 1 「CBO の運営について」  
鬼塚哲郎

1. NPO について

広義の NPO : すべての民間非営利組織 (広義の NGO と同意、すべての CBO を含む)

狭義の NPO : NPO 法人格 (特定非営利活動法人格) を持つ組織

2. 広義の NPO の活動領域 : 市民社会領域 ⇔ 市場 ; 住民領域

3. 広義の NPO はどう運営されるか—ピーター・F・ドラッカーに依拠しつつ

(\* 『非営利組織の経営』 ダイヤモンド社、1991年 \* 『非営利組織の「自己評価方法」』 ダイヤモンド社、1995年)

1) ドラッカーの NPO 運営モデル

- (1) ミッション (社会的使命) を立ち上げる
- (2) ニーズ・アセスメントを行う
- (3) プログラムを立案し、実行する
- (4) 実行されたプログラムを評価する
- (5) 評価を 1 と 3 にフィードバックする

2) ドラッカーによる NPO の自己評価方法

5つの質問

- (1) われわれの使命は何か?
- (2) われわれの顧客は誰か?
- (3) 顧客は何を価値あるものとするか?
- (4) われわれの成果は何か?
- (5) われわれの計画は何か?

\* ミッション+PDCA サイクル (Plan ⇒ Do ⇒ Check ⇒ Act)

3) ケーススタディ

(1) 「外国人地震情報センター」

(\* 田村太郎 『多民族共生社会ニッポンとボランティア活動』、明石書店、2000)

(読み上げ原稿)

尼崎市にある、在日フィリピン人コミュニティ向けのビデオ・レンタルショップで働いていた田村太郎は、1995年1月17日未明に大震災が阪神淡路地区に大きな被害をもたらしたその直後、店を訪れたフィリピン人たちの口から「いったい何が起こったのか?」という問い合わせを受ける。問い合わせの背後に大きなニーズを直感した田村は、その2日後、大阪市内で外国人地震情報センターを立ち上げ、相談電話を開設し、ボランティアを募り、メディアを通じて広報を打ち、被災した外国人への情報サービスを開始した。情報サービスの主な内容は「知人の消息はどこに行けば分かるか」「被災者はどのようなサービスが受けられるか」「義援金はどこで受け取ることができるか」などであった。相談

の内容は当初、震災関連に限られていたが、次第に在日・滞日外国人の生活全般に及ぶようになった。そこで事業内容の見直しをなされ、同じ年の夏、日本社会が「多文化共生社会であることを自覚し、それに向けて変わっていくこと」を使命とする「多文化共生センター」として再出発した。

(外国人地震情報センターのミッション/クライアント/ニーズ/プログラム/評価/評価後のフィードバック/を描いてみよう)

(2) ベトナム・フエ「子供の家」

(読み上げ原稿)

ベトナム戦争の頃、ベトナム人民支援運動に参加していた小山道夫は、その後都立小学校の教諭の道を歩んだ。1991年にソ連が崩壊しベトナム訪問が可能になった直後にホーチミン市を訪れた小山は、そこで多くのストリートチルドレンを目の当たりにし、衝撃を受ける。彼らの存在が大人の世界への糾弾だと感じた小山は「何かしよう」と決意し、小学校教諭の職を捨て、ベトナム・フエ市の日本語教師の職を得、その地でストリートチルドレンの自立を支援する施設を開いた。財源はフエ市当局からの援助、ODA 草の根緊急援助金、元同僚たちが立ち上げた支援組織からの支援金などであった。小山によれば、ストリートチルドレンが抱えるニーズはまず「食べること」「病気との闘い」そして「教育」である。しかしフエ市のストリートチルドレンは約 150 名おり、彼らすべてにサービスが提供できているわけではない。

(フエ・子供の子の家のミッション/クライアント/ニーズ/プログラム/評価/評価後のフィードバック/を描いてみよう)

4) 自分が働いている組織の：

- (1) 使命は何か？
- (2) 顧客は誰か？
- (3) 顧客は何を価値あるものとするか？
- (4) 成果は何か？
- (5) 計画は何か？

4. おさらい

1) ミッションは誰が立ち上げるか？

2) ニーズはどう定義できるか？

3) クライアントには 2 種類ある

4) 評価の落とし穴とは何か？

5. さいごに、コミュニティにおけるエイズ・STI 予防（もしくはセクシュアル・ヘルスの増進）をミッションに掲げる CBO の特徴を考えてみよう

(資料2) グループワークA「活動をやってよかったこと、しんどかったこと」プレゼン資料

やりがいを感じた瞬間!!

「ご苦労様」ありがとうと言われた事。

研修会で今まで疑問に思っていた事がはつきりわかったと言われ、評価されてたと感じる事。

配布しているコンドームを持っていく、持っている人を見かけた。

食べるゼリーをもらった

aktalに来てくれる人が増えた。

今まで作成したコミュニケーションペーパーに書いてある地図を持ちながら、店を探している人達を発見した時の感動。

コミュニケーションペーパーを配ったら、「お疲れさま」とお店の方に言われた

よかったことを言うより、うれしかったことになりませんが、町で「コンドームを使った!!」とか「ニュースレターを見ましたヨ!!」と言ってもらえた時。

友達が増えた!!

活動を通じて知り合いや友達が増えた事。

友達が増えた。

新しいボランティアと出会うこと。

友人や知人が増えた

活動を通じて全国に知り合いができた。地方に行くようになった。

コンドーム配布を通して知らなかった店の方々と話せるようになった。

福岡にゲイの知り合いが少なかったけど、知り合えた。

自己啓発

いろんな人の意見を聞くことができた事。

活動を通じて自分が変わったと感じた。(活動的になった?)

グループの問題

自分の意見が採用されない時。意見を否定される時。

グループ間の人間関係でギクシャク。

言いだしっぺがやらかなきやだめ。

スタッフ間の意見の相違。人間関係。

入ったばかりでよくわからなくてミーティングについでいけない

無理解

コミュニティやバーで経営者の方になかなか理解してもらえないこと。

「コンドーム配りなんて意味ない」と言われた。

疲れ

長期的に活動していくうちに少しずつ疲れてくる。

金曜日寝不足

マンネリ化

人手、時間、お金の不足

お金がない!!

人手不足

人手が足りなくて忙しい。

仕事や私生活など、活動以外の時間が制約される。

1

人手が足りない分みんなですべてしてもらって。

大阪に遊びに来れた。

それまで知らなかったバーやイベントに行くようになったこと。

主催イベントに来場していただいた人にイベントをほめてもらったこと。

いろんなイベントに参加できること

ハッテン場レポートをまかされることになった。取材の度にやれる。

クラブにただで入れた。

楽しい、単純に2D目を知れた

個人的利益

## プロジェクトの成果が目に見えた

コミュニティスペース：来場者が多かった月(うれしい)

コミュニティペーパー：記事の反響があった。(うれしい)

Fucks!(ハッテン場向けフリーペーパー)：同時にカフェイベント、トークイベントをやることで認知度が上がる(予定)。

コンドーム普及：パッケージへの興味(うれしい)

## コミュニティ内のつながり

店間の情報を伝達する役割になり、情報操作がうまくいったこと。

Fucks!を通じたハッテン場関係者とのつながり。

普段行かない店などもコミュニケーションがとれる。

## ネットワーク

全国に出かける機会が増えた。

よその地域の人との交流。

活動していることを公言することで、Safer Sexを勧めやすい。(自分が)

店主(マスター)の理解や空気が読めるようになった

良かった事：平日は会社員をしているので、平日とは異なった経験をj得る事ができた。

良かった事：活動的なメンバーを見て自分を活性化することができた。

知り合いがカムアウトしてくれた。(ポジだという事)

## 仲間が増えた

メンバーが少しずつ増えてきた。

デリヘル：若い人が興味を持ちやすく、活動に入ってきてやすい。

## スタッフ間の温度差

活動のモチベーションが低いスタッフが抜けることが多い。

デリヘル：ゴム配り屋さん的になり(ルーチンワークなので)、興味を継続させにくい。(登録は30人弱だが、毎週来る人は限られる。)

## コンドームアウトリーチ

デリヘル(継続的に行うこと、ユニフォーム)によってakta(コミュニティセンター)の認知度をあげることができた。

コンドームの配布が歓迎されるようになったこと。  
店の人から応援してもらえた。

イベント(啓発)内容を考えること。

知識を要求される。

## 意見の衝突

しんどかった事：話し合いの中で意見の相違があり、お互い理解しあえなかった事があった。

スタッフ間の感情の衝突がある。ドライに割り切れない、ゆずれない。

## 人不足

しんどい。シフトが埋めきれない。ミーティングに来ない。(スタッフ不足)

本業よりも優先して作業しなければならない状況が多い。

べ切直前にバタバタする。(時間が足りない)

いい事をしていると思われる。

イベントでゲストを呼んだが、客が少なすぎた。

アンケートが集まらない。

## 2

## 中傷

ネットでたたかれた。

しんどかった事：ある特定の人物から個人攻撃を受けたことがあった。

裏下陰口を言われているのは知っていているが、明確に伝わってこないし、どう改善してよいかかわからない

HIV+の人に「どうしてHIV+の人の気持ちがあるの!?!」といわれる事。

しんどい。陽性者の方の「生でやっちゃった。あはは。」的発言を聞いていると時。

## 友人が増えた

デリヘルを始めて友達・知り合いが増えた。そこから飲み会に行く機会も増えて、更に友達が増えた。

良かった事：他のゲイの人と親交を持つことができた(友達が増えた)

知り合いが増える。(しがらみも)

## 個人の知識向上

知識が増えたこと

良かった事：HIV陽性者とも会い、HIVに対する認識が変わった。

良かった事：新しい情報や知識を得る事ができた。

## コンドーム

お店から“ありがとう”と言われた。

「頑張って下さいね！」と言われた。(デリヘル)

ゴムのデザインが良くないと言われた。

店の場所がわからない。

本当に自分のサイズにあった物を使っているか？

持ち運びが不便(コンドームの)。

お店の名前覚えられない。

コンドームの保管がかさばる。

コンドーム普及：人手不足

飲み屋との関係が薄く、冷たい。

重い。

同じ人で回るのはしんどい。

同じ人で回るので、飲み屋の人と顔なじみになる。

「コンドーム」って言い方がよるしくないと  
言われた。

コンドームに親近感がわいたと言われた。

## コミュニティペーパー

持っていくの重い。

アイデアが浮かばない。

夏は暑い。春がいい、配るなら。

ネタを考えるのが大変。

オニのグルメ情報が便利。

お店の地図がクワイアントに好評。

多くの情報を盛り込むことができない。

知らない店を知った。

3

## コミュニティセンター

話せる友人ができたと言われた。

時々カウンセンテグが求められる。スタッフが負担。

人手不足  
(コンジェルは破綻)

当番で入るのは、人手がないと大変。

「akta、あー。」と言われた。認知度↑

いろいろな人が来て話をするのが楽しい。

## 勉強会

ターゲットのレベルの差に悩む。

マンネリ化

ネタに困る。

集まる人が少ない。

結構ためになる。

自分のためになる。

勉強会って、「勉強」ってイメージがなんか…。

## イベント関係

いろいろな人と知り合えた。

楽しい！

人手不足

“定期的に”発行やイベントをするのが難しい。

スタッフのモチベーションの差がありすぎた。

知り合いが増えた。

自分の好きなゲストが呼べる。

### 活動への理解

HIVに無関心だった人が、ふと振り返るとき時(自分の部のこととして感じる)

活動にやりがいを感じられるような協力や必要性を得ることができた。

居場所があること。

活動への理解者や協力者が増えた事。

二丁目でデリヘルをやっていると、良く声をかけてくれる。応援もされる。

### 作る楽しさ

準備を楽しくめる。

アイデアが事業として実現していく事。

イベントを作ったりして、作りの側の気持ちがかかる。

### 人とのつながり

こういう活動を通してか会えないような人達と出会えた事。出会えること。

いろんな人とつながられる事。

デリヘルを始めてから、この街で友達が出来るようになった。行くバナーも増えた。

いろんな人に会えたこと。

コミュニティネットワークが作れつつあること。

友達増えた。

活動以外でもスタッフの人と遊びに行くこと。

### 成果

活動の成果がある程度いい評価を受けていること。

話題に出来る内容が増えた。

大学の友達と会話がすむ。(二丁目、デリヘル、HIV、コンドームなどの話。

パフォーマンスを通してお客さんの心が動いた瞬間。

ポジティブの人とそうでない人が、当たり前に共存し、楽しめた瞬間。

コミュニティセンターがあることで、種々な人が場を共有し出会う。

大学の友達にも気軽にコンドームをゆずったりできるようになった。

プログラムで得た知識を持ち帰り、自分の経験に役立てている声を聞くことが出来た。

検査の情報を伝えた方が、検査後、陰性と分かると、これからの気をつけたいという言葉や、姿勢にあらえた時。

### 行動の変化

ボランティアの若い子達が何かやりたいと言ってきてくれる事。

ハッテン場によく行くようになった。

パレードなど他のゲイイベントに行くようになった。

Gay能生活の幅が広がった。

パソコン買った。

セーフティーSEXできるようになった。

研修とかで色々なところに行ける。

ポジティブの人が心を少しずつ開いてくれること。一緒に何かしたいという気持ち。

何かをしたという気持ちに立会い、始めることが出来た。

HIVを取り巻く事柄や、セクシュアリティについて考える機会を得た。

### 病気に対しての意識の変化

ゲイとして生まれた自分に意味を感じることが出来た。ゲイでよかったと思えた。僕で何かの役に立つことができる、と。

Gayである事を肯定的に考えられるようになった。

### 生

色々感があることが増えた。

HIVという病気を間近に触れるようになってから、しっかり生きていこうと思うようになった。

### 意識の変化

5

良かった事

モチベーションは初期  
出会い 楽しい

クラブで遊べた。

色々な経験が出来て  
よかった。

自分たちの知らなかった  
事を知ることができた。

視野が広がった

友達の輪が広がった。

皆で何か企画したり、作  
業するコトが楽しかった。

SEX以外の話ができる人に  
会えた。

多様性を目の当たりに  
できた。

HIVを通じてゲイである  
ことを再考できた。

街の反応

リブ嫌い。ボラ嫌い。

ホモアビアとの関わり。

陽性者の陽性者嫌い。

えらそうなボランティア。

スタッフ側の問題点

教え広めたい願望。

一方的の押し付け、  
思い込み。

街へのアプローチの  
仕方

活動

勉強会で人が集まら  
ない。

陽性者の声を反映した  
予防啓発活動がなかな  
かできない。

街の人々の声を生かす  
ことの難しさ。

運営

人材育成難しい。

アウトリーチの人手不足。

継続させるボランティア難。

じじいが少ない。

始めは話しずらかった。

スタッフの年齢差があり、コミ  
ュニケーションが取りづらい。

肝

予防のオプシオン不足。

やってることの成果が  
わかりづらい。

陽性者周囲の人とのつ  
ながり。

交流会、他の支援団体  
の少なさ。



## 人間関係

色んな友達や知り合いが出来た。  
 色んな人の話を聞く機会。  
 色んな人に出会えた。  
 新しい知り合いが増え、つながりが増えた。  
 R2, akitaを通じて様々な人と知り合うことが出来た。  
 友達がふえた。  
 年が近いので、参加者と仲良くなりやすかった。  
 (合コム)

オトコが出来た(はるか昔)。  
 出会い(男)ができた。(デリヘル)

## 体験

色々な都市(街)に行った。  
 あちこち出かけて、いろんな人に会える。  
 色々な場所に行く機会が出来た。  
 色々な店を知った。

今まで知らなかったバー、店を知ることができた。(入りづらかった店も入れるように...)

お店の雰囲気があった。(デリヘル)

ゲービーデビューできた。

## 仕事

仕事を引き受けてくれる若手が育った。  
 若い人が手伝ってくれる。  
 1人で思いついてはじめてたが、若い仲間が参加してくれた。  
 ベテランの人たちの交流が増えた。

イベントを催したりして楽しい。  
 初のイベントでのべ75名参加!  
 うれしー。

お菓子もらえた。(デリヘル)  
 お店の人に優しくされた。  
 バーで営業「大切よねー。頑張ってる」といってもらえる。

ファンに全ておしつけてしまっていた。(合コム)  
 だからファンの時のプレッシャーがデカッ!!

時間が無い。  
 忙しすぎ!  
 時間(自分の)がなくなったこともある。  
 寝てる時に相談の電話。  
 交通費がかさむ。

## 成長

間違った知識による偏見がなくなった。  
 やってて自分も勉強になった。(合コム)

別れた時、気まずかった。(デリヘル)

企画の時に喧嘩が多かった。(合コム)  
 基本的に若者“のみ”でプログラムを決めたから、ネタ切れやまともな役がいなかった。(合コム)

合コムでも  
 R2

飲みに行っても営業モード。  
 行きづらい店ができた。

発展場にどきどき。  
 ハッテンしにくい。顔バレしすぎ。

嫌い? 苦手な人との関わり。  
 知らない人と話しをするのが苦痛。

経験が少ない。  
 知識が乏しい。

タイプ外の店は冷たい。(デリヘル)  
 店によっては嫌な顔をされることもある。

ふっきた。

(資料3)

## グループワーク B「プログラムを考える」

プログラムシュミレーション： 対象地区の描写（長谷川博史氏）

### 【概要】

阿成市は日本の地方中核都市の一つであり、この地方で最大の商業集積を誇る経済、文化、教育の中心都市である。また、観光地を背後に抱える同市には鉄道によるアクセスが発達し、地域内からは買い物客が、全国からも多くのビジネス客や観光客が訪れる。人口50万人規模の都市が隣接県（高速道路および鉄道利用による移動90分圏内）に2都市存在する。

商業地区は明治時代から発達した阿成駅南側周辺の市川地区に最大の商業集積があり、ここに地域内最大の歓楽街である鬼哲新地がある。さらに市の北東部には戦後発達し、昭和40年前後から大型店舗が進出し商業集積が進んだ未生（みおお）地区があり、市川地区に並ぶ集客力を有している。

市川地区と未生地区の間地点に県庁、市役所がある官庁街が位置している。

昭和60年代からは、大学が相次いで都心部から市の郊外北西部の内海地区にキャンパスを移転し、平成10年前後から郊外型アウトレットモールやシネコンなどの新しい大型商業施設もこの地区に進出している。

### ★人口

夜間人口：約105万人          昼間人口：約121万人          世帯数：約45万世帯

商圏人口：約278万人（周辺25市町村）

### ★教育

高等学校数：41（全日制+定時制）生徒総数30,164人

大学・短大：11 学生総数43,363人（大学院生含む） 各種専門学校：25 学生総数 3,822人

### ★産業、その他

市内における商業集積が進むいっぽう、隣接する山間部の山本市には自動車、家電、IT産業などの企業誘致が進み、ここ10年で若年労働層、外国人労働者の流入が進んできた。

### ★ ゲイコミュニティ

市内には主に2地域のゲイ産業集積が見られる。一つは鬼塚新地に一般飲食店と混在し、現在17軒のバーが営業し、客層は比較的高齢のゲイが集まっている。ここから徒歩圏内にある港湾部の槍満公園は古くからハッテン場として知られている。これに対し、未生地区において昭和50年代に数件のバーが鬼哲新地から移転したことをきっかけにバーが増加し現在では21軒が営業、そこに集まる客を対象として未生地区周辺にマンション系ハッテン場が進出した。さらに平成に入り内海地区に200人～500人規模の複数クラブが開業し、ここにおいて大型ゲイイベントが年間2～4回開催されるようになった。この地域内にある種壺公園は同地域の野外系ハッテン場として注目を浴びている。

### ★ 医療、保健

市内にブロック拠点病院が1病院、拠点病院が3病院あり、全体でゲイ・バイセクシュアルの患者42人を診療。その9割を阿成医療センターで診療。また検査機関としては主に保健所利用が多く、保健所は阿成市内に8ヶ所。未生保健センターでは土曜に検査を月一回行っている。

### ★ 支援団体その他

県内にはHIV関連の支援団体が1団体が存在し活動しているが、HIV陽性者のクライアントはほとんどいない。電話相談と地域の学校などでの予防講演、エイズデーイベントでの行政協力が主な活動内容。性教育団体はエイズ問題にはあまり関与していない。

阿成市のゲイ産業集積

市川地区鬼哲新地	★ 特徴：駅前というロケーションから、比較的高齢層の通勤客と周辺地域、他県からの鉄道使用による集客が多い。施設は全般に15席から20席程度の小規模店舗が多く、一般飲食店の中に散在しているためゲイ対象の店であることを目立たないように看板や店構えにも配慮している。周辺地区からは通勤客が多く、平日にもコンスタントに集客している。		
	バー	17軒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20代歳代～30歳代中心：3軒</li> <li>・20歳代～50歳代中心：10軒</li> <li>・40歳代～70歳代中心：4軒</li> </ul>
	ショップ	1軒	・ビデオ専門店「どすこい」
	ハッテン場 商業施設	2軒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅を改造した小規模サウナ「大穴」。デブ、フケ多し。</li> <li>・旅館タイプ「お気楽会館」</li> </ul> <p>※バーの客層とかさなる。終電以降の深夜12時がピーク</p>
	ハッテン場 野外系	1カ所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・槍満公園</li> </ul> <p>※夕方6時頃から仕事帰りのビジネスマンが中心となり、夜9時頃までは同地域内のバーの客層とも重なる。終電までの時間帯が中心。</p>
	その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前の映画館「阿成ローズ座」</li> <li>・駅構内西口有料トイレ</li> <li>・槍満公園脇のスーパー銭湯「釜の湯」</li> </ul>
未生地区	★ 特徴 客層は比較的若い層が集まり、規模も鬼哲新地の店舗に比較すると大きめ。内海地区との移動・交流も多く、週末集中型の集客パターンのお店が多い。ゲイ対象の施設の7割が3つの雑居ビルに集中しており、そのせいか開放的な雰囲気がある。地元出身者が半数を占めるが、就労・就学のために地域内からの流入層も多い。		
	バー	21軒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20代歳代～30歳代中心：12軒</li> <li>・20歳代～50歳代中心：8軒</li> <li>・売り専バー：1軒</li> </ul>
	ショップ	1軒	・総合型ゲイショップ「Big Jim」
	ハッテン場 商業施設	4軒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション系3軒</li> <li>・サウナ系「21倶楽部」ミックスルーム3室の中規模施設</li> </ul>
	その他		・ファッションビル「ANARI CTY」の屋上公園
内海地区	Club		3人のオーガナイザーによりゲイパーティが年間、計8回開催されている。その集客力は200人程度7回、500人程度1回。
	ハッテン場 野外系	1カ所	種壺公園 ※市内に留まらず、
その他	出張ホスト	3軒	出張ホスト2軒、マッサージ1軒
	サークル他		<p>Sports：バレーボール大会、テニス大会</p> <p>文化：コーラス1団体、大学ゲイサークル1団体（桃熊大学）</p>
	ゲイビーチ	1ヶ所	市西部に土壺海岸があり、3月頃から10月頃まで、県内全域から1日平均45名のゲイが集まる。

## ゲイコミュニティの証言 ―コミュニティにおけるインタビュー調査から―

### ★ゲイ・アクティビティについて

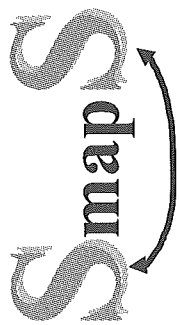
- ・ インターネット上に「未生のイベント情報」「阿成のゲイ」「種壺で種付け」「桃熊大ゲイサークル」なんか、阿成市に関係した複数のHPがあるわよ。(25歳・リーマン系)
- ・ 最近、東京のゲイパレードや名古屋のNLGRに出かけていく人が増えたわねえ(36歳・熊系)
- ・ やっとゲイのコーラスとか昼間の活動が始まって、阿成にもゲイコミュニティらしい活動が生まれてきたわよねー。あと、パレードやりたいけど、無理よねえ。(31歳・バー「なごみ」マスター)
- ・ ゲイサークルって言うてもねえ桃熊大にあるだけでメンバー全員で3人なのよ(21歳・大学生)
- ・ 毎年、夏には土壺海岸でゴミ拾いする子たちがいるの。みんな「六尺お掃除部隊」って呼んでるわ。いつも土壺で六尺跡焼き付けてる日光写真オバサンが中心ね。鬼哲のお客さんが多いかしらね、どっちかって言うと。(42歳・短髪色黒)
- ・ 20代中心のレズビアン・ゲイの団体があるらしいけど、何やってるかよくわかんないのよね。たぶんリブ系でしょ。あ、去年、LGBT映画祭を内海でやろうとして動いたけどお金が集まらなくて中止になったみたい。バーにも広告取りに来てたけど、5、6軒くらいしか反応がなかったみたい。やっぱ、阿成じゃあ、無理よねー。(41歳・自称SGの駄デブ)
- ・ 内海の大バコで600人のパーティがあったの。東京からバビエやオナンなんかのドラッグクィーンやGOGOのなんかも超一流どころを呼んでね。でもまさかあんなに集まるとは思わなかった。来年もやるらしいわよ(26歳・ショップ店員)
- ・ 桃熊大の山本先生はゲイを公表していて、「特別講座・エイズ」をやってる。(18歳・パディ系)

### ★ライフスタイルとコミュニティのムード

- ・ 家族と同居が多いわよね。それが煩わしくて一人暮らしする子もいるけど、みんながそう出来る訳じゃないからねー。それに三十過ぎの男同士と一緒に住んでたら目立つから同棲だって難しいわよ、ここじゃあ。(40歳・超おねえ)
- ・ 昼間は4、5人の気のあった仲間とテニスして、その後ご飯食べて、夕方から鬼哲に飲みに行くってのが、毎週末のパターンかしら。(45歳・短髪リーマン系)
- ・ ホモだっればれたらこの町では生きていけないッスよ(34歳・髭坊主いかにも系)
- ・ 最近家族や友だちに自分のセクシュアリティを伝えている若いコも出てきた。(24・りぶがま)
- ・ 鬼哲あたりのお客さんって、所帯持ち多いよね。(31歳・クラバー)
- ・ バーなんか行かない。お金かかるしね。友だちにも自分がゲイだって話してるけど問題無し。インターネットで男もゲットしたし。けっこう幸せかな。(24歳・文化系)
- ・ ことさら自分がゲイだって意識しなくても普通に生きていければ良いんじゃない?(35歳・普通)
- ・ 内海で女装イベントやってるけど、困る。俺たちあんな連中と一緒にされたくない。(35歳・普通)
- ・ 鬼哲にも未生にも出てこないネットの子が増えてきたわよね。(18歳・パディ系)

### ★HIV／エイズと性行動

- ・ HIVなんて大阪とか大都市の問題でしょ、阿成には関係ないわよ(38歳・がちむちママ)
- ・ いまどきコンドーム無しでセックスするなんて信じらんない(24歳・りぶがま)
- ・ やっぱ、中だしッスよ。種壺公園あたりはほとんどが生ッス。(34歳・髭坊主いかにも系)
- ・ 槍満公園って、内海あたりと違ってウブな若いコをひっかけやすいのよ。(45歳・短髪リーマン系)
- ・ エイズの予防なんかやってるの、なんか偽善者っぽい。(41歳・自称SGの駄デブ)
- ・ (34歳・髭坊主いかにも系)
- ・ あたしは彼としかセックスしないから、大丈夫。(24歳・文化系)

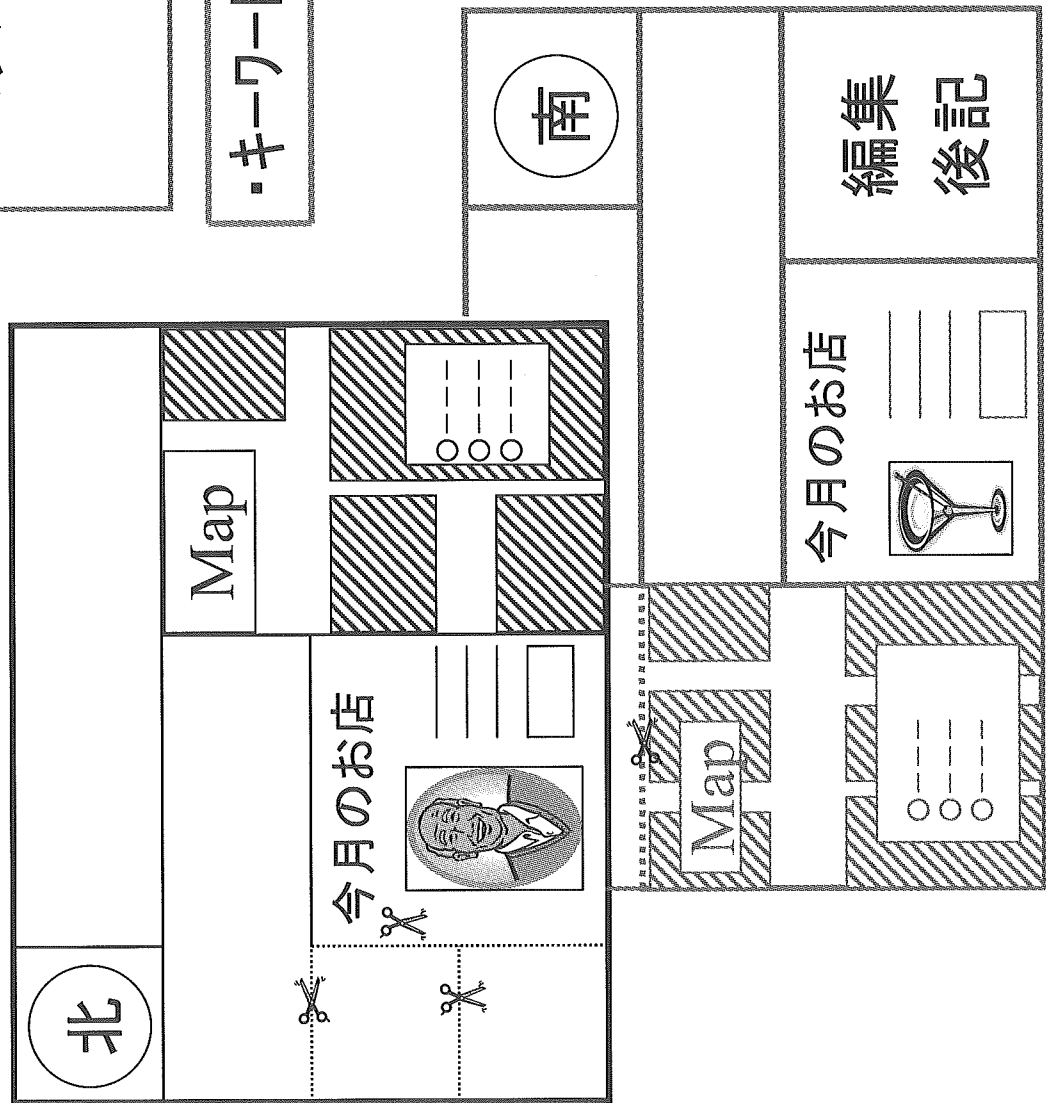


## グループ1.コミュニティペーパー

・ミッション:STIの知識向上  
地域との連携  
保健所との連携

・キーワード:北と南を両A面に  
:検査情報は切取り  
:記事、STIのクイズ  
キャンペーン

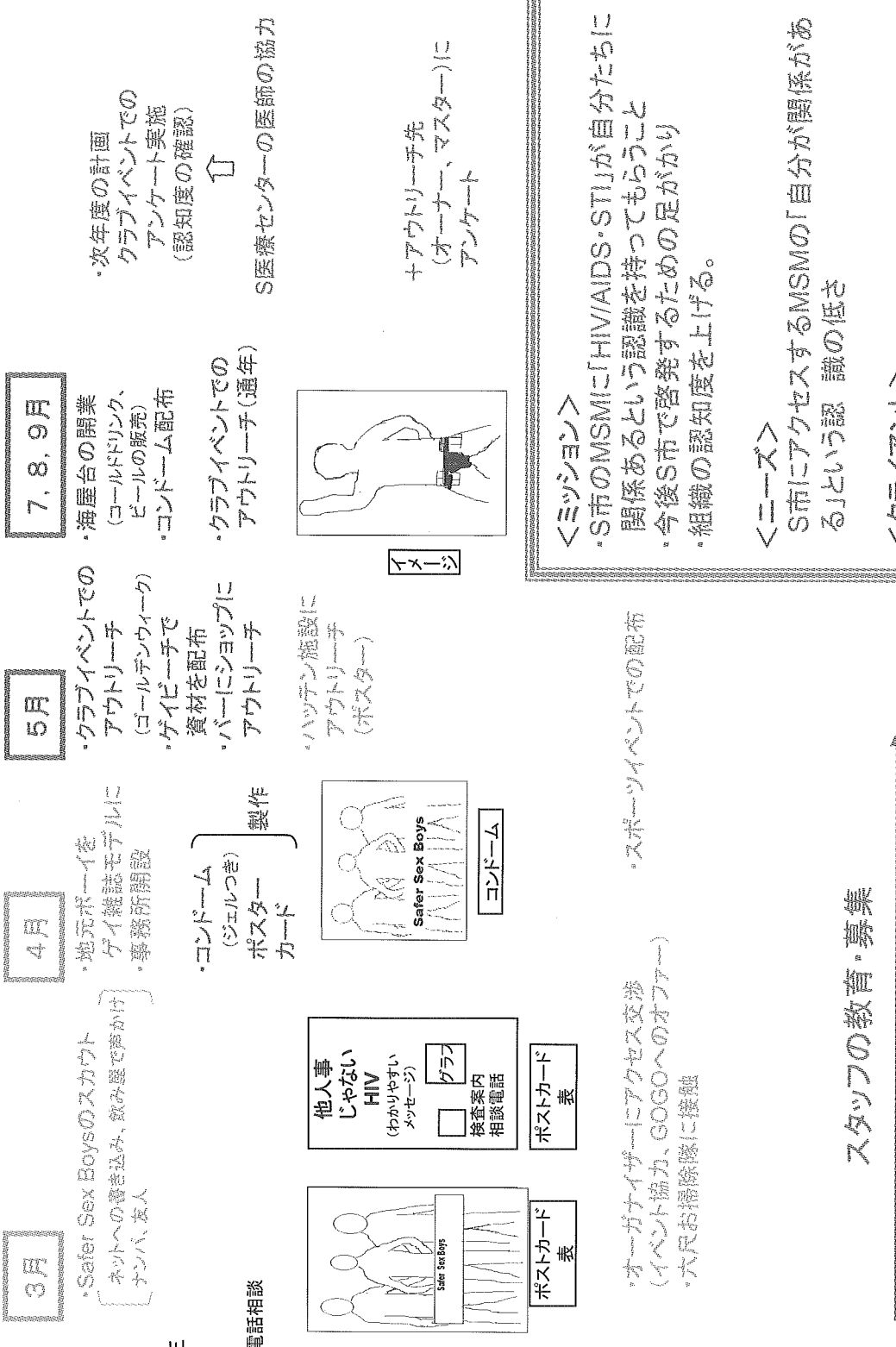
評価:  
・配布数のカウント  
・アンケート調査  
・保健所での認知  
・クイズキャンペーンにて



# Safer Sex Boys キャンペーン

(前年度中)

〔 桃熊大の山本先生  
保健所  
支援団体  
スタッフ教育、電話相談  
治療分野  
への協力を依頼 〕



＜ミッション＞

- ・S市のMSMに「HIV/AIDS・STI」が自分たちに  
関係あるという認識を持ってもらうこと
- ・今後S市で啓発するための足の足がかり
- ・組織の認知度を上げる。

＜ニーズ＞

- ・S市にアクセスするMSMの「自分が関係があ  
る」という認 識の低さ

＜クライアアント＞

- ・S市のMSM(コミュニティ)。全年齢層を狙う。

初年度は既存のホームページを利用して広報

# グループ3

# <PARADAIDE B→CH>

: 啓発イベント

夕方イベント

## ミッション

: 感染防止、予防の意識向上

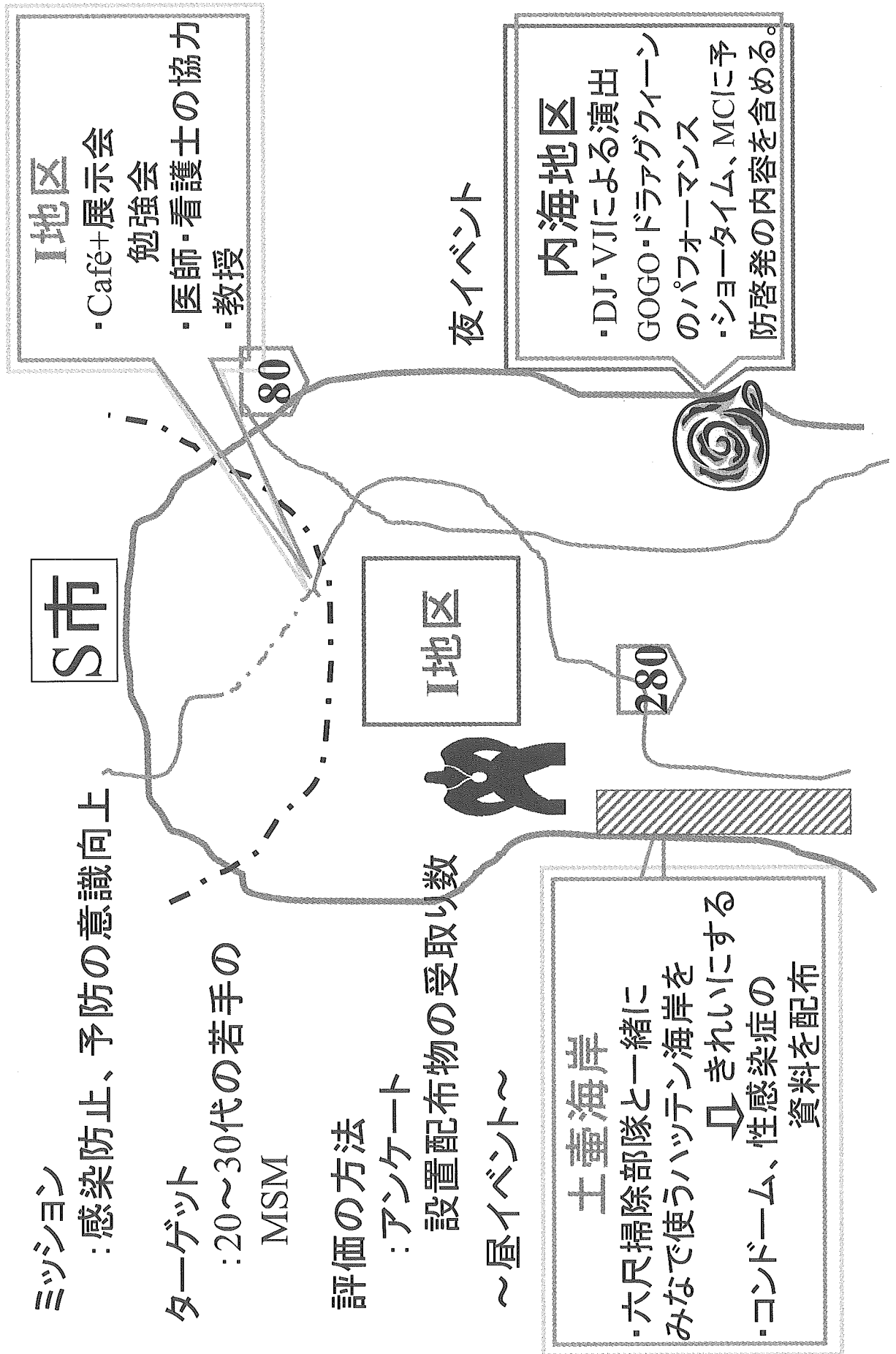
## ターゲット

: 20~30代の若手の  
MSM

## 評価の方法

: アンケート  
設置配布物の受取り数

~ 昼イベント ~



I地区

- ・Café+展示会 勉強会
- ・医師・看護師の協力 教授

I地区

夜イベント

内海地区

- ・DJ・VJによる演出 GOGO・ドラアグクイン のパフォーマンス
- ・シヨータム、MCに予 防啓発の内容を含める。

土壺海岸

- ・六尺掃除部隊と一緒に みなで使うハッテン海岸を
- ↓ きれいにする
- ・コンドーム、性感染症の 資料を配布

なぜ？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの連携を作る</li> <li>・コミュニティの帰属意識を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントを知るため</li> </ul>
何を？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップ</li> <li>・コミュニティに伝えたい情報</li> <li>・ホームページ(Web)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによる調査</li> </ul>
誰に？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇新地を中心とした従業員、利用者</li> <li>・インターネット利用者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブイベントに来る人</li> </ul>
どこで？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇新地を中心としたゲイ関連商業施設で掲載を了承したところ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブイベントで</li> </ul>
いつから？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月をスタートと考えて4, 5月準備 6月半ば配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6月準備(医療関係への協力)</li> <li>・7～9月2回アンケート実施</li> </ul>
誰が？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備→アンケートの作成分析(医者)、大学の先生</li> <li>・交渉 会場のオーガナイザー</li> <li>・実施 ボランティアと協力(ゲイサークルの)</li> </ul>
どうやって？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体とweb</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面コーナー設置</li> <li>・ドリンクチケット</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページへのアクセス数</li> <li>・バーなどでのまきとりアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収枚数</li> <li>・アンケート時のお客のリアクション</li> </ul>



**目的**  
 ニーズ発掘  
 ネットワーキング  
 移動せよ  
 じゅんぷり

**企画**

大学の先生  
 医療センター  
 HIV、STIの勉強会  
 S市の情報共有  
 ビジビリティ > かんき  
 Reality

the  
**YORAI**  
 (よりあい)

Key person  
 オーガナイザー  
 サークラ  
 おそつじ部隊  
 大尺たんけん隊

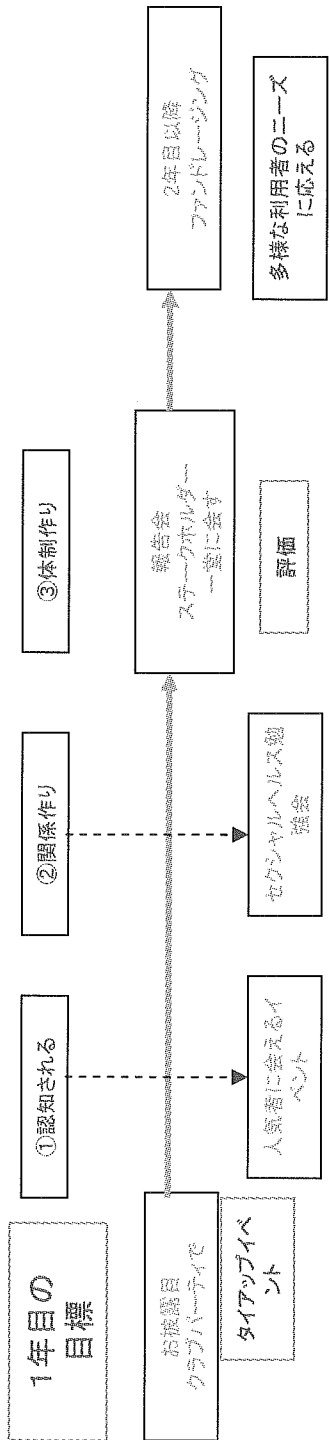
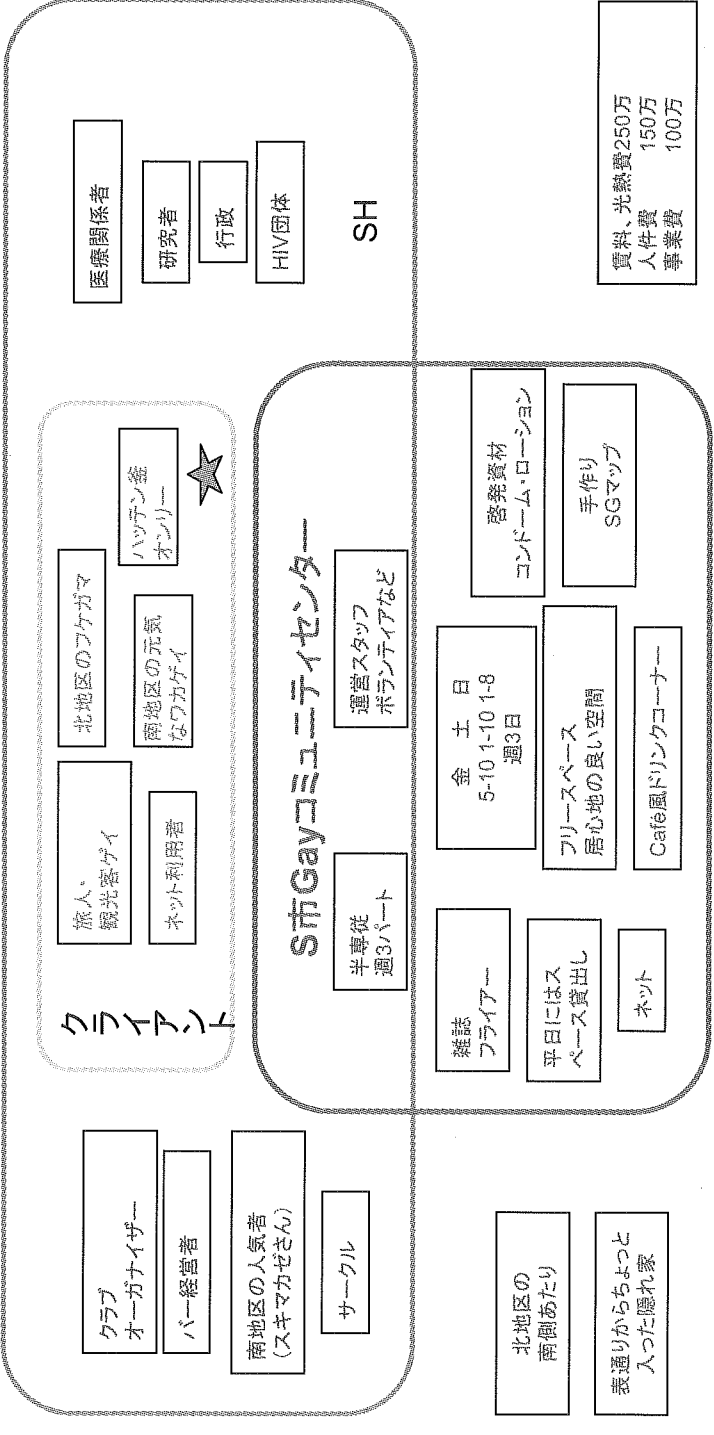
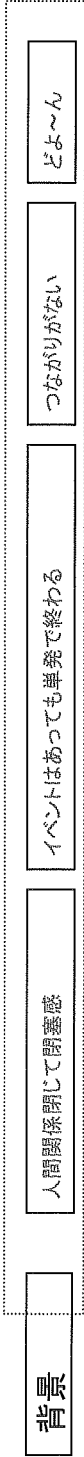
第1たん

もうかりませー  
 カモ企画  
 第2たん

Z氏たらしこみ  
 寄付  
 大作戦

**どっぼっア**  
 しこたま知識、より道あり

5グループ  
 S市



(資料5)

地域における HIV 感染対策プログラムに関する検討会  
研修参加者アンケート (9月22日～23日研修用)

1. 今回の研修に参加して何を学ぶことができましたか。または、どのような点がよかったですか。
  - 1) 違う地域の CBO と話すことで、現在行っている活動の良い点、悪い点がわかりやすくなり、また交流することで交わされた意見などが大変有益でした。
  - 2) 東京以外の地域の人々とコミュニケーションができた。グループワークの大変さ(良い意味でも、悪い意味でも)を知った。
  - 3) 各地区のいろいろな役割の人と話ができて、いろいろな視点からの意見を参考にすることができた。長谷川さんの講演で陽性者の視点も知ることができた。
  - 4) 陽性者からの視点の不足を感じていたのだが、それが再認識された。
  - 5) いろいろな意見を聞いたこと
  - 6) プログラムを作る際の明確な順序を学んだ。他地域のプログラムの考えなどをグループワークの間に知り、勉強になった。
  - 7) 月並みな言葉なんですけど、他の団体さんの置かれている状況で「やり方」が大きく違ったり、似かよったりしている所を実際に経験している人達から聞くことができたので、今後何かイベントや企画を練る時の選択肢のようなものが増えました。
  - 8) (全く)知らない人との協調する難しさ、他と交じる事で自分達の団体の色が明確にわかった。他の団体のやり方、新しい見方を学ぶことができた。グループの組み合わせもうまくバラけてて良かった。グループで色々なプログラムを考え、発表を聞いた時、新しい何かを得た。
  - 9) 仮想の都市を想定してプログラムを検討していくこと際に、今まで自分の都市での経験側でしか物事を考えられなかった事が他の NPO の方々の意見を基に取り入れる事ができ、またそこでの交流ができた事がよかったですと思います。何より同じ目的で動いている他の地域の人々と意見を共有できる事がうれしい。
  - 10) プログラム作成のアイデア。全国で皆さん頑張っているんだと実感できたこと。
  - 11) いろいろな視点・指向がある事を確認できたところがよかった。
  - 12) 大げさですが自分を取り巻く世の中について、もう少し落ち着いてみていきたいと思った。HIV、STI についての現状や予防の大切さについてはもちろん学ぶことがあり、ものすごく有意義だった。一番素晴らしいと思ったのは、真剣に取り組む仲間たちが全国にいるのだということ。今は感動しています。
  - 13) 他の地域の活動内容やスタンスなど、ほとんど伝言でしか知らなかったことが実際に知れた(実感できた)のがよかった。あと、グループでのプレゼンテーションを初めて体験できたのもよかった。今後も他の地域との合同は続けていけたら楽しいと思う。
  - 14) 協調性、協同作業、個性
  - 15) CBO の運営について、普段このような視点から見たことがなかったので。様々な地域で活躍する様々な年齢の人とともに考え、感じ、プランを作っていたこと。
  - 16) 活動の評価と今後の結びつきを常にサイクルとしてまわす必要性

- 17) 陽性者の立場を少しですが学ぶことができました。他地区の人とコミュニケーションがとれてとてもよかったです。
- 18) プログラムの作成の仕方、その過程。思いつき（アイデア）とエビデンスのすり合わせ。
- 19) プログラムの形成の中で他地域の考え方を知ることができた。また、同じ団体でもよく見ると考え方にいまいち統一がされていないことがあることがわかった。地域によって力（プレゼン力とか）の差を感じた。
- 20) ランダムに選ばれた（？）同じグループの（他団体の）人と話したり、意見交換ができただけでなく、実際にプログラムを組上げる点でとても有意義だった。
- 21) 普段できない他の地域の人たちと交流ができてよかった。
- 22) 何かの問題に取り組むことの難しさが垣間見れたような気がしました。実際にグループワークで取り組んでみて、その過程を踏んだ経験がすごくためになりました。最後の長谷川さんのお話し、よかったです。
- 23) 背景、条件が異なる人たちと一緒に「作り上げる」こと。ファシリテートし、整理することで、経験の少ない人も十分に力を発揮できること。経験があっても、やりとげるまでには、あらゆることへの配慮が必要だということ。それに助言をもらうことが、とてもためになること。
- 24) 座学でニーズを発掘してクライアントにサービスを提供するにあたり、踏んでいかなければいけないプロセスなどがわかり、今後の参考になった。
- 25) 他団体に、自分達にはない考えや企画力等を見せられたり、オニツカ先生やハセガワさんの講義の中にも考えること、自分に重なる部分などがあり、勉強になった。
- 26) グループワークにおいて、相手の話を聞き、自分の意見を出し、ちゃんと議論をすることが出来ること、産み出されるものが多かった。今まで行ってきた活動をふりかえり、他のグループの活動を知ることができた。人間年をとっているからといって、成長しているわけではないと分かった（笑）。もうちょっと「オバサマ」たちは若者の意見を聞いて欲しい。
- 27) 予防に携わる人たちの活動する上での生の声やとまどいを耳にすることができた。
- 28) 各地域で活動しているメンバーが数多くいるということを実感し、相互に交流することが出来たこと（各地域混合でのグループワークを含む）。仮定のプログラムを開発することにより、現在行っているものを自分の中で位置づける契機となったこと。→地域ごとにつきあわせてみる必要があるであろう。
- 29) 学ぶことができました。他団体の人とグループワークできたことが良かったです。
- 30) 班会議等ではわからない、各地域で活動している人達の思考の仕方やスタンスなどが、リアルに感じられておもしろかった。各地域に参加する人達が対等に、自由に意見を言いあえる環境ができ、今後もっと、情報や意見がスムーズになるのではないかと思えた。
- 31) 「議論」の中の私の役割。その視点についてじっくり考えるきっかけになった。他人のアイデアと自分のぶつけ方、生かし方、融合の仕方。
- 32) 座学においては一団体に活動する一人としての自覚や、備えておくべき考え方や知識に触れられたことがとても良かった。グループワークについては、複数で1つの目的に向かいプログラムを作り出す難しさと、1人では練り上げられない完成度を感じられた。
- 33) 組織運営の手法について学べた。今まであまりこのような理論的な事をしてこなかったもので、使ってみてみたいと思った。